

外国人留学生と友情を育みながら 世界で活躍する人材育成をめざす

この日、八王子キャンパスの第1グラウンドに集まったのは、ベトナム、カンボジア、中国からの留学生と国際交流アシスタントの学生たち。現在、帝京大学では、アジア圏を中心に世界各国から約400人の留学生を受け入れています。職員だけでは把握しきれない留学生一人ひとりの悩みや不安を少しでも解決しようと、4年前に学生による国際交流アシスタント制度がスタートしました。言葉も文化も違う留学生の学習環境を整えるべく始まったこの制度は、今では学生たちの国際交流の場となっています。

「私は留学経験があるのですが、言葉の壁がある上に慣れない土地で電車の乗り方すらもわからず、留学中はたびたび不安を感じました。同じような経験をしているからこそ、留学生の不安な気持ちがよくわかります。私たちがサポートすることで、限られた留学期間を少しでも有意義に楽しく過ごしてもらえたらと思います、参加しています」。そう語るのは外国語学部外国語学科4年生の橋本沙織さん。国際交流アシスタントの活動内容は、空港への出迎えや役所での手続き、履修登録や日本語学習の補助、また歓迎迎会の企画など、生活面から学業面までさまざま。そのような中、橋本さんは積

極的に留学生と交流し、友情を築いています。「サプライズで誕生日パーティを企画したら、留学生がとても喜んでくれました。喜ぶ顔を見ることが嬉しいから、役立ちたいという気持ちも強くなります。そんな世話好きな性格もあり、韓国の友達からはオンマ(韓国語でお母さんの意味)と呼ばれています」。留学生にとって一番身近な存在の学生たちがサポートを行うことで、学生同士で助け合い、思いやる気持ちも生まれます。国際交流アシスタントの活動を通して留学生の役に立つことが自分のためにもなったという橋本さんは、将来も人に喜んでもらえる仕事に就きたいそう。

中国の黒竜江省から教育学部へ留学中の刘旭倫(リュウ・キョクリン)さんは、「最初は日本語がわからず、何もかもが大変でしたが、アシスタントのサポートもあって、日本語も上達できました。日本と中国は難しい問題を抱えていて少し不安もありましたが、実際は心配していたようなことはありませんでした。人種や国籍で人を判断してはいけなさと改めて感じました」と話してくれました。

異国の文化を尊重し認め合う。国際交流アシスタント制度は、国際人として活躍できる人材を育てるという側面もあるようです。近い将来、彼らが世界を舞台に活躍する日が、今から楽しみます。



feel TEIKYO 
あなたにつながる帝京大学 撮影・池田晶紀